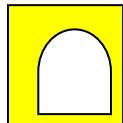


日吉台地下壕保存の会会報



第127号
日吉台地下壕保存の会

第20回 戦争遺跡保存シンポジウム長野県松代大会 参加報告

副会長 亀岡敦子

はじめに

2016年8月20日～22日、第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム長野県松代大会は、四方を山に囲まれた、真田家の城下町長野市松代町で開かれました。テーマは「近現代の戦争遺跡を調査・保存し、平和のために活用しよう」です。松代は、第1回シンポジウムが開かれた記念すべき地で、「松代大本営の保存をすめる会（現NPO法人松代大本営平和記念館）」は、戦跡保存に関して先駆的役割をはたしてきました。以来20年間、全国シンポジウムは開催地をかえながら続いており、加盟団体も増えてきたことは、戦跡保存の重要性が、社会的にも認識されてきたと言えるでしょう。以下、大会の簡単な報告をいたします。

目次

第20回戦争遺跡全国シンポ長野県松代大会参加報告	1p
☆基調報告：戦争遺跡保存の現状と課題 2016	2-7p
☆分科会報告：松代大会分科会レポート	8p
☆FW感想：松代大本営地下壕を見学して	9p
お知らせ ：10-11p	
☆第24回川崎・横浜平和のための戦争展 2016 実施要項	
☆日吉フェスタ 2016 (11月5日)	
☆バスツアーの案内 (11月27日)	
講演 ：駆逐艦「雪風」乗組員西崎信夫さんのお話	12-13p
連載 ：海外の戦跡めぐり (4) 拉孟戦と惠通橋	14p
活動の記録 (6～9月) ：	15-16p

8月20日(土)会場 松代文化ホール

初日午前は、象山地下壕（政府・日本放送協会・中央電話局などの移転予定先）見学会と、映画「キムの十字架」上映会が行われました。午後からは、主催者あいさつと歓迎あいさつに続き、朗読劇「女たちの松代2016」がギターとキーボードをバックに上演されました。

次に児童文学『キムの十字架』の作者である和田 登氏による記念講演があり、松代大本営地下壕構築に多くの朝鮮人労働者が従事していたこと、それをどのように伝えていくか、著作を引用しながら話されました。



休憩をはさんで、出原恵三戦跡保存全国ネットワーク共同代表の基調報告がありました。この報告は、戦跡保存活動の歴史をひもとき、活動の意義および保存の現状について、的確に伝えられていますので、出原氏の許可を得て全文を掲載します。「戦争遺跡 指定・登録文化財の動向」によれば、神奈川県では横須賀市と相模原市の十数点を数えるだけで、日吉台の戦争遺跡群も登戸研究所跡も、国どころか県市いずれの文化財にも指定されていないことが分かります。

松代大会 花岡邦明 実行委員長の主催者挨拶

最後の地域報告2本はいずれも深刻なものです。はじめに今年4月の熊本地震での戦跡被災状況「熊本地震での戦争遺跡被災状況と復興に向けて」が「くまもと戦争遺跡・文化遺跡ネットワーク」の高谷氏による説明があり、全県の被災状況を調査中とのこと。また松代からは、天皇御座所予定地（松代地震観測所）が今年4月から無人化になったために、今後の見学がどうなるのか、という現状報告がありました。

夜の全国交流会は、松代ロイヤルホテルでフルートの美しい音色に迎えられて始まり、美味しい食事と、志を同じくする仲間たちと年に一度の顔合わせを楽しみました。

8月21日（日）分科会と閉会集会 会場 松代公民館

2日目は、3か所の会場に分かれての分科会で猛暑の中、熱のこもった質疑がありました。最後に大会アピール《近現代の戦争遺跡を調査・保存し、平和のために活用しよう》とともに、《熊本地震で被災した「陸軍隈庄飛行場の油倉庫・弾薬庫」を震災遺産の文化財として保存することを求める決議》を採択し、来年8月高知で会うことを約束して、大会は幕を閉じました。

基調報告

戦争遺跡保存の現状と課題 2016 -第20回全国シンポ松代大会-

戦争遺跡保存全国ネットワーク共同代表 出原恵三

はじめに

沖縄の村上さんが共同代表を引かれましたので3月から共同代表となりました。村上さんには長年にわたって会の発展に力を尽くして下さいました。深い洞察力と行動力でもって、粘り強く戦跡保存に取り組まれました。村上さんに対して敬意を表しますとともに深く感謝申し上げたいと思います。

少しだけ自己紹介をさせて頂きますと私は昨年3月まで高知県埋蔵文化財センターに勤務しておりまして、34年間遺跡の発掘調査に携わってきました。全国ネットには第2回の沖縄大会から参加していますが、共同代表にふさわしい力量を兼ね備えているとは思えません。皆さんにご指導頂きたいと思います。

さて、今回の全国シンポは、20回目となりました。戦争体験者が減少し戦争の風化が危惧される中で、戦争遺跡をして戦争の悲惨さ実相を語らせようという市民運動の高まりの中で1997年に発足し第一回目がこの松代で開催されました。最初からかかわってこられた方々に置かれましては感慨ひとしおのものがあるものと拝察致します。これまで参画された多くの皆様の支えによって会を継続・発展させることができたと思います。

戦争遺跡の調査・研究から戦争の実相に迫り、これまで触れられることのなかった地域と戦争との関わりについても新たな知見を提供し、保存活動を通して戦争遺跡に平和を願うシンボルとしての第二の生命を蘇らせてきた。指定された戦争文化財数も増加し本年7月段階で267件を確認しています。戦争遺跡の保存・活用が市民権を広げて来た証であります。文化財行政においても各自治体において多くの問題を抱えながらも情熱的な文化財担当職員によって支えられて前進してきたと思います。そして何よりも私たちの活動を通して、戦争遺跡を近現代史研究の表舞台に登場させてまいりました。

しかしながらその一方、私たちの活動を取り巻く環境には、大変厳しい状況が進行してい



全国ネット共同代表 出原恵三さん

ることも事実であります。ご承知の通り安倍政権のもとで著しい政治の右傾化が強まっています。侵略戦争を肯定的に捉え、侵略戦争の加害の側面が隠蔽されて、中国や朝鮮半島など東アジア諸国との歴史認識の溝は深まっています。政府は昨年9月憲法違反の安保関連法制を強行成立させ、日本が国外で戦争する国になったことを公言しました。先の参議院選挙により憲法の明文改正が現実味を帯びているなかで、このような右傾化への傾向は今後さらに強くなるものと思われます。戦争遺跡が戦争肯定や賛美に利用されることも危惧されます。

第20回全国シンポを平和と民主主義にとって戦後最大の危機に直面しているなかで迎えました。戦争の記憶は「ひと」から「もの」へと言われて来ましたが、「もの」をして語らしめるのは現代を生きる私たちであります。戦争遺跡に何を語らせ、何を伝えるのか、戦争遺跡をして如何に強固な「平和の砦」たらしめるのか。20周年の節目の迎えた今回、松代の地で論議を深めたいと思います。

前置きが少し長くなりましたが、昨年から今年における戦争遺跡の動向に付いていくつかのアングルから述べてみたいと思います。

1. 文化財保護行政と戦争遺跡

日本列島には旧石器時代から現代まで約44万件の遺跡が確認されており、「周知の埋蔵文化財包蔵地」として位置づけられ、全国の自治体の遺跡地図に登録されております。ところが戦争遺跡が埋蔵文化財包蔵地として扱われているところは、悉皆調査が実施された沖縄県の1076件を除けば、全国で僅か15件（鹿児島1：知覧飛行場跡、宮崎2：隼墜落現場・B29墜落現場、福岡2：稲童掩体・稲童地下通信司令部壕、高知3：旧海軍通信所跡・向山防空陣地・向山戦争遺跡、徳島2：板東俘虜収容所跡・小勝島戦争遺跡、静岡1：牛尾実験場跡、山梨1：ロタコ遺跡、神奈川3：日吉台地下壕・野島地下壕・奈良地下壕）に過ぎない。

これまで指定・登録文化財となった戦争遺跡は、そのほとんどが地上に残る構造物である。しかし全国で数万件と言われている戦争遺跡の多くは、地表に明瞭な形状を留めず埋没しているものも多い。このままだと開発工事等に伴う事前の発掘調査の対象にすることができない。何ら記録もされずに消滅していかざるをえない運命にあります。分布調査などを実施して周知を図っていくことが急がれます。

各自治体、戦争遺跡に対する態度は相当見られるものの、以前に較べると「一種の抵抗」はかなり少なくなっています。他の時代の遺跡調査と同様に調査が実施できている自治体も見られます。

1945年に山陰地方では「チ号演習」と呼ばれる「本土決戦」を想定した大規模な演習が行なわれました。鳥取県米子市では、それに関連した交通壕跡を、古墳の確認調査において広範囲に検出している（金廻芦谷平遺跡）。鹿児島県南九州市では道路建設に伴う事前の発掘調査において知覧飛行場跡のみを対象とした調査が行なわれている。同じく出水市では戦争遺跡の保存と共に2014年から市内の戦争体験者に聞き取り調査を業務として実施しており本年6月現在で90余名に達しているとのことである。

文化庁が2004年に刊行予定であった戦争遺跡調査の報告書（「近代遺跡調査報告書9政治軍事」）が大幅に遅延している問題はこれまでにもたびたび取り上げられて来きました。遅延の理由として特に沖縄戦での日本軍による住民虐殺や慰安婦問題などの記述に対して政府からの圧力が働いているとの指摘がされて來た。このことに関して6月29日の新聞記事に『発表遅れお蔵入りも』との記事が掲載されました。文化庁記念物課は〈沖縄戦は微妙で、公表の見通しはたっていない〉としています。この件について十菱共同代表は「文化庁の公表先送り、『事実上のお蔵入り』が、沖縄戦の実相をゆがめようとしている安倍政権の意向を受けた判断とすれば許されない。早期に公表すべき」とコメントされています。

また新たな動きとして昨年から始まった文化庁の日本遺産事業があります。これについてはあとで触れます。

2. 熊本地震による文化財・戦争遺跡の被害

2016年4月14日と同16日に最大震度7を観測する地震が熊本を中心に発生し死者71名、負傷者1816名、家屋倒壊など多大な被害を出しました。文化財も熊本城をはじめ深刻な被害を受けており6月27日熊本県教育委員会の発表によると指定・登録文化財685件中、21.9%にあたる150件に及んでいます。

戦争遺跡については地元「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」が、精力的に被災状況の把握やレスキュー活動に取り組まれている。それによる7月9日集計で31件の被災が確認されている。この件については熊本の高谷さんから報告があります。被災状況の把握や被災建物の実測調査などに「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」が奔走されています。全国ネットでは、十菱さんと出原が現地に赴き被災状況を見てまいりました。現在、加盟団体や運営委員などを通して被災戦跡の調査の支援カンパを訴えています。



熊本からの地方報告（側壁の倒壊）

3. 新聞記事から見た戦跡の動向 埋蔵文化財業界の業界紙的な存在

『月刊文化財発掘情報』(ジャパン通信社)の2015年8月号～16年7月号(15年6月～16年5月までの記事)で取り上げられた戦争遺跡関連記事は70件であり、3年前菊池実氏が行なった時点の33件に較べ倍増している。戦後70年ということで戦跡への関心が高まったことが大な要因であろう。地域別に見ると北海道・東北地方3件、関東地方5件、中部地方14件、近畿8件、中国地方13件、四国地方6件、九州16件、全国3件、海外2件である。県別に見ると原爆ドームの耐震工事にかかる発掘調査などが注目された広島県が12件と最も多かった。次いで石川5件、沖縄・熊本・長崎・愛知の各4件である。時代別では明治期2件、大正期3件、昭和期63件で、昭和期が9割近くを占め、昭和期の中でも1945年の遺跡が49件である。内容に見ると個人等の新発見事例が21件、行政の発掘調査などが13件、資料紹介10件、補修・保存8件、世界遺産関係6件などである。

世界遺産関連では、歴史認識に関連する記事が見られた。「明治日本の産業革命遺産」(8県23施設)の世界遺産登録に際して一部の施設について朝鮮半島出身者の強制労働があったとして韓国が登録に反対した一幕が有り、両者の歴史認識の違いが浮き彫りになる中で、議長国ドイツが強制労働を含む「負の歴史」を明示した自国の世界遺産を紹介(「ベーマー議長：私たちは働かされたすべての人々のことを記憶にとどめる、対話につながった」)し、調整にあたった姿が印象的であった。中国が南京事件資料を世界記憶遺産に申請したのに対して、日本政府はこれを阻止するために奔走し、ユネスコへの拠出金の停止や減額の検討に言及するなど国際的な反発を招いた。

宮崎県の「平和の塔」(1940年建造「八紘一宇の塔」)の一部に使われている南京産の礎石は「旧日本軍の略奪品」だから返還するよう南京博物館関係者が宮崎県にもとめた。新たな歴史問題に発展する可能性がある。今後真剣に向き合わなければならぬ問題となろう。蛇足かも知れませんが、文化財という文言は、実は日中戦争のなかで略奪などの行為を世界の目からカモフラージュするために作られた造語であることも併せて考えなければなりません。

4. 戦争遺跡 指定・登録文化財の動向

(1) 戦争遺跡 指定・登録文化財一覧 2016年7月末 267件 (2015年7月現在 230件)

●国指定文化財 35件、◎県指定 17件、○市区町村指定 122件、▲国登録文化財 78件、△市区町村登録文化財 12件、◇道遺産・市民文化資産 3件 ※個別件名詳細は省略

(2) 指定・登録文化財に見られる特徴

2016年7月現在、国指定文化財 35件、県指定 17件、市町村指定 122件、国登録文化財 78件、市区町村登録文化財 12件、他 3件で計 267件が指定されている。特徴的な動向について見ると長崎県の原爆遺跡 5件が登録文化財から国史跡へと移行しました。新たに史跡などに指定されたものが 8件である。その内訳は埼玉県桶川市熊谷飛行学校桶川飛行学校跡の建物が市の有形文化財（員数 5）、石川県内灘町着弾観測所と同射撃指揮所、熊本大刀洗飛行学校黒原教育隊奉安殿、旧鹿屋航空隊関連の川東掩体壕と串良基地電信壕電信司令室、三重県明和町旧陸軍第 7 通信隊第 128 部隊防空壕である。また大阪市立美術館（旧陸軍高射砲第 3 師団司令部跡）が登録文化財となった。新たな指定・登録物件は移行を除くと 8件である。昨年の 230 件に対して 35 件増加していないといつまがあいませんが、過去に指定されていた事例で漏れていたものを拾った結果 265 件となった。

267 件の内訳を地域別に見ると北海道 40、東北 9、関東 59、中部 30、近畿 21、中国 19、四国 10、九州 79 件である。地域的にかなり特徴が見られる。北海道では 40 件のうち 28 件が屯田兵関連であり、これらの指定は戦争遺跡の概念が成立したと言われている 1990 年以前に指定されたものがほとんどで 1970 年代に多く見られ、最も初期の例は剣淵町の 1954 年に遡る例がある。近畿では 21 例あるが内 11 例が舞鶴旧鎮守府関連の重要文化財と登録文化財である。舞鶴市に隣接する福井県大浜町でも舞鶴要塞を構成する吉坂堡壘砲台跡・吉坂付属堡壘砲台跡の国史跡を目指して測量調査が行なわれている。

5. 保存の進展と保存運動の展開

まず桶川飛行学校建物の保存を上げなければなりません。「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」の粘り強い保存運動の賜物であります。第 18 回全国シンポで語り継ぐ会事務局長の鈴木義宏氏によって報告され、その後も取り上げられてきている。桶川飛行学校は陸軍熊谷飛行学校分教場として 1937 年に開校し戦争末期には特攻隊の訓練飛行場となる。45 年 4 月には陸軍初の練習機による特攻隊（振武第 79 特別攻撃隊）12 名が知覧にむけて出発したところである。語り継ぐ会では 2008 年以来 8 年間に渡り、週 1 回見学会の実施、記録の掘り起こしや聞き取り調査、展示、DVD の制作、会誌発行、絵葉書制作など実に多彩な活動を続け保存署名は実に 14,000 筆を数える。このような活動に応えて桶川市は 2010 年に敷地を購入、今年 2 月に建物 5 棟が市指定有形文化財となった。桶川市では道の駅・飛行学校課を設け保存整備の事業に着手している。行政と市民団体の協働による大きな成果であり全国の自治体は見習いたい。

豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会では 1996 年の発足以来 20 年間、工廠跡地を平和公園にするよう市に対して働きかけ、現地見学会や講演会の実施、会誌「けやき」の発行（現在 57 号）など熱心に取り組んできた。本年、平和公園つくりの工事が開始された。

高知では、旧歩兵第 44 連隊弾薬庫・講堂建物の調査と保存するように 2011 年から高知市に対して行なって來たが、昨年度に高知市は建築学や文献等による調査を行い 3 月に詳細な報告書を刊行した。その結果現存の建物は明治 30 年代に遡ることが明らかとなった。今後、保存のための取組みを強化しなければならない。

直近のニュースとして武藏野市の旧中島飛行機製作工場で地下道のコンクリート床面が公園拡張工事中に発見されました。（8月 3日の朝日新聞多摩版に掲載）ここは「武藏野の空襲と戦争遺跡を記録する会」によって「変電所」の保存の要望が東京都や武藏野市に出され熱心な保存運動が行なわれて來たところでありましたが「建物壁面に空襲痕跡がない」など

の理由で昨年解体されたという前史がある。（包蔵地となつていれば最初から調査するが可能）今、地上構造が無くても地下施設のあったところは要注意である。

6. 戦後70年 戦争遺跡をめぐる動向

昨年は戦後70年ということで学会の専門誌や研究会等においても戦争遺跡をテーマにした特集や企画が多く見られた。出版物では『アジアの戦争遺跡と活用』（菊池実・菊池誠一編 雄山閣）があります。日本国内、中国、韓国などアジア各地における戦跡の最新動向が示されました。また文全協の『明日への文化財』74号においても「戦争遺跡 戦後70年を迎えて」という特集が組まれ、6本の報告と書評が掲載された。

催し物では、昨年7月奈良大学オープンキャンパスで「戦後70年考古学から見た戦争遺跡」が開催、伊藤厚史氏の基調報告はじめ4本の報告と討論がなされた。11月には東南アジア考古学会で「東南アジアにおける戦争遺跡の保存と活用」をテーマに大会が昭和女子大学で行なわれ国内外の事例8本の報告と討論がなされている。

また鹿児島県考古学会秋期大会では「戦跡考古学」をテーマに研究発表と戦跡見学が行なわれている。鳥取県立博物館では『戦後70年鳥取と戦争』企画展を開催された。

海外においても注目すべき催しが行われた。その一つは9月19日、安保関連法案が強行されたまさにその日、ソウル市庁広場で行なわれた「70年ぶりの里帰り」を上げなければなりません。北海道では戦時下の強制労働で犠牲となった朝鮮人労働者の無数の遺骨が故郷に帰ること無く寺院や仮埋葬地に残されてきた。1970年代から民衆史掘り起こし運動により犠牲者の遺骨発掘が始まり、同時に市民の手による遺族探しも行なわれてきたが、多くの遺骨が残っていた。戦後70年となる昨年、旧陸軍浅茅野飛行場建設犠牲者34体をはじめ115体の遺骨を奉還する事業が日韓市民の共同で行なわれた。遺骨奉還の道程は、戦時下に多くの労働者が朝鮮半島から北海道へと連行された道を逆に故郷へと戻るもので、北海道-東京-京都-大阪-広島-下関-釜山-ソウルへの3500kmである。19日午後から韓国考古学者らによる報告会が行われ、夕刻からソウル市庁広場に設けられた祭壇において70年振りに帰国を果たした115体の厳粛な葬儀が行なわれた。1,000名以上の市民が参加した。

2015年8月15・16日、黒龍江省黒河市にある黒河学院（大学）を会場として中国・ロシア・日本による「紀念中国人民抗日戦争と世界反ファシズム戦争勝利七十周年国際学術検討会」実施された。中国の研究者を中心としてロシアの研究者3名が参加、そして日本からは菊池実氏（ハルビン師範大学教授）が参加し、菊池氏は「近代日本の戦争遺跡」という発表を行っています。16日には孫吳に残る日本の戦争遺跡（軍人会館跡）や戦争博物館などを視察した。同じ8月にはハルビンの侵華日軍731部隊罪証陳列館がリニューアルオープンしている。

戦争遺跡に関連する例で見れば昨年10月に舞鶴引揚記念館収蔵資料570点が世界記録遺産に登録された。また今年5月27日オバマ大統領が米国大統領として初めて広島を訪問、平和記念公園で原爆死没者慰靈碑に献花、演説した。

7. 戦争遺跡に何を語らせるのか

昨年4月から文化庁による日本遺産事業がはじまった。その趣旨は「地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定し、国内外への魅力発信や地域活性化を図る」とされている。2020年までに100件程度を認定する予定である。昨年18件、今年は19件が認定され旧海軍鎮守府の横須賀・呉・佐世保・舞鶴が「日本近代化の躍動を体感できるまち」として認定された。その概要には「旧軍港四市は、どこか懐かしくも逞しく（たくましく）、今も訪れる人々を惹きつけてやまない」とされている。あまりにも一面的な評価ではないでしょうか。

周知のように旧軍港は、侵略戦争を繰り返すたびに巨大化し、まさに富国強兵の近代化路線を象徴する遺跡群である。それをこのように、侵略戦争への反省も加害の意識も欠如した

余りにも一面的な取り上げ方をすることは許されない。戦争を肯定的にとらえる「軍事博物館」の台頭に伍する動きである。東アジア近代史の中で決して普遍化できるものではない。偏狭なナショナリズムを助長し、東アジアの人々との歴史認識の共有を阻害する。

遺跡を保存・整備することは遺跡に第二の生命を付与することである。戦争遺跡は「誤った戦争をなぜ起こしてしまったのか」ということを想起させ、侵略戦争と植民地支配の実相や悲惨さを直視し加害や被害、抵抗の事実を確認するものでなければならない。戦争に向かい、学び、伝えて行く場所でありアジアの人々と共にできる歴史を構築していく場所でなければならない。

8. 今後の課題

安倍政権は「積極的平和主義」のもと史上最大の軍事予算を組み、一昨年の集団的自衛権行使容認の閣議決定に続き、昨年9月には憲法違反の安保関連法を強行採決、7月の参議院選挙の結果、明文改憲が現実のものとなった。沖縄においては、政府は新基地建設反対の県民の意思を何重にも踏み躊躇敵意むき出しで高江のヘリパットやキャンプシュアブ等新基地建設を強行しようとしている。歴史認識の問題においても日本が行なってきた侵略戦争と植民地支配の事実を歪曲し戦争を正当化しようとする動きが活発化し、先に挙げたようにアジア各国や世界との間に深刻な矛盾が拡大している。

このような状況下、東アジア近代史を理解するうえで戦争遺跡の存在意義はきわめて大きいと思います。日本は侵略戦争を繰り返す毎に軍備を拡大し、時間の経過とともに戦争遺跡はその数を増し1945年に最大の集中が見られます。戦争遺跡の変遷と分布が侵略戦争の帰結を見事に表しています。しかも戦争遺跡は私たちの最も身近にある遺跡であり地域と戦争の関わりを明らかにし、日本近代史を含めた東アジア近代史を見つめ直す最良の教材でもある。「なぜそこに戦争遺跡が存在するのか」そのことの追究から侵略戦争という事実に触ることになり、遺跡はそこに存在することによって歴史と空間を共有し追体験を可能にします。権力による事実隠蔽や歴史修正主義に流されることなく、「平和の砦」として地域から強固な歴史像を構築するために戦争遺跡を保存する意義とその役割は大きい。そのための課題を以下列挙したい。

- ① 戦争の記憶と戦争遺跡を保存する目的を常に追究する。
- ② 戦争遺跡の調査研究と整備、保存、活用の推進と普及をはかる。
- ③ 戦争遺跡の文化財指定・登録の推進、特に「周知の埋蔵文化財包蔵地」への登録と周知化に努める。
- ④ 中国や韓国など海外の戦争遺跡研究や博物館との交流を広げる。
- ⑤ 戦争遺跡を生かした地域づくりの推進をはかる。



第一分科会 中田均さんの報告
(陸軍多摩火工廠見学会の報告)



朗讀劇「女たちのマツシロ 2016」より

第20回長野県松代大会分科会レポート

第1分科会(保存運動の現状と課題)

No	氏名	所属団体	レポート題名
1	中田 均	浅川地下壕の保存をすすめる会	陸軍多摩火工廠見学会の報告
2	成迫政則	武蔵村山市戦争遺跡保存の会	武蔵村山市戦争遺跡保存の会設立の経過
3	松樹道真	NPO松代大本營平和祈念館	松代大本營地下壕ガイドを担当して
4	金澤大介	筑波海軍航空隊記念館	一筑波海軍航空隊一 特攻(KAMIKAZE)は、いつ、どこで決められたのか?
5	原田弓子	貝山地下壕保存する会	敗戦直後の横須賀軍港(米公文書館所蔵、戦争遺跡 に平和を学ぶ京都の会、福林徹氏より提供)紹介
6	小島和宣 北原高子	長野県強制労働調査ネットワーク	長野県内に残る、戦争遂行のために働かされた 外国人強制労働の現場を訪ねて

第2分科会(調査の方法と整備技術)

No	氏名	所属団体	レポート題名
1	工藤洋三	空襲・戦災を記録する会全国連絡連絡会議	海軍の工事基準に準拠した山口県周防大島の聴測照射所
2	横山 藍	戦争遺跡ネットワーク高知	旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫等調査の成果 -建造物調査から見る陸軍歩兵第44連隊建造物の歴史-
3	高谷和生	くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク	「陸軍菊池飛行場より発見された”九五式四挺演習弾”と熊本県の戦争 遺跡保存等の現状」
4	小玉秀成 山本達也	小美玉市役所	旧百里原海軍飛行場掩体壕群第12・13号掩体壕における米軍空襲の痕跡 ～出土した12.7mm機銃弾の分析～
5	寺脇正治	瀬戸地下軍需工場跡を保存する会	戦時下の町内会記録から見た疎開工場と市民生活
6	久保田雅文	NPO松代大本營平和祈念館	本土決戦のために長野市で計画された 特設警備隊分隊長以上の教育計画資料

第3分科会(平和博物館と次世代への継承)

No	氏名	所属団体	レポート題名
1	春日恒男	文化資源学会	市ヶ谷記念館を「東京裁判記念館」へ
2	傳田紀昭 轟 清秀	長野空襲を語り継ぐ会	「生徒と共に戦争を掘り起こす」
3	飯島春光	NPO松代平和祈念館	「君は満州へ行くか」 -地域の課題に目を向けた総合的学習における平和学習-
4	小島和宣	松本強制労働調査団	中信地方の戦争遺跡と歴史的背景
5	芹沢昇雄	NPO中帰連平和記念館	「NPO・中帰連平和記念館」近況報告
6	渡辺賢二	登戸研究所保存の会	戦後70年過ぎて甦る登戸研究所

報告

戦争の事実を伝える松代大本營地下壕を見学して

ガイド養成講座受講・新ガイド

岡本雅之

8月20日から22日にかけて行われた「第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム長野県松代大会」の現地見学会②として、「象山地下壕と舞鶴山の大本營及び天皇皇后宮内省用施設の見学会」に参加した。この松代大本營地下壕は、以前から興味を持ちながら見学の機会がなかったが、今回ようやく観ることができた。

8時半に旧松代駅集合・受付。大型バス2台で9時出発、半日の行程での見学会が始まった。まずは象山東駐車場で下車し、2班に分かれて象山地下壕へ徒歩で向かう。途中ガイドの方から数か所で説明を受けながら、数分で地下壕入口に到着。ヘルメットを着用しやや狭く傾斜した入口をくぐり進むと、硬い岩盤に至るまでは鉄骨で補強されている。底長4メートル、頂高2.7メートルの素掘りの地下壕が広がる。底はでこぼこでやや歩きづらく、日吉台の地下壕との差は大きい。各所でガイドの方の説明がある。岩に残る削岩用ロッド跡や、突き刺さったままのロッドが生々しい。掘削工事はほとんどが朝鮮人労働者の手で進められていたようで、構内にはハングル文字も残されており、厳しい労働環境での作業の苛酷さが



松代大本營・象山地下壕の見学会

伝わってくる。この地下壕は昭和19年11月11日から20年8月15日まで9ヶ月の間に掘り進められ80%が完成していたという。軍部の戦争継続への強い意志を感じられる。なぜ、戦争を止めるという考えがなかったのだろうか。硫黄島の戦闘、沖縄の激戦等、激しい戦いがこの地下壕の完成のための時間稼ぎだったように思われる。この地下壕には日本政府、日本放送協会、中央電話局などが移転する予定であったという。この建設に強制動員された朝鮮人・日本人の方々の苦悩にも想いを馳せたい。

バスで「気象庁松代地震観測所」に移動する。舞鶴山の大本營、天皇御座所を見学した。まずは天皇御座所の見学。年1回の公開日のほか、今回このシンポジウムのために特別公開された。現在、気象庁の松代地震観測所になっている建物が天皇御座所として建てられたのである。昭和20年4月に建設を始め、半地下式の鉄筋コンクリート製、内装は総ヒノキ造り、床の間のある16畳の和室で、地下壕で大本營地下壕に通じている。また少し下ったところに仮の宿舎として地元の民家を移築して皇室の宿舎を建てたという。そのため地元の村人は警備上、防諜上の理由から立ち退きを命じられ大変な目にあったという。さらに7月には

「賢所」の建設を計画。「三種の神器」は天皇御座所に一緒に置くのは不適切との宮内庁の指摘で、向い側の弘法山の中腹を保管場所に決定し、登り道を造り始めたところで終戦を迎えたとの事。予定通り12時過ぎに見学を終え、バスで旧松代駅前に移動し解散した。

大本營地下壕、本土決戦と国体護持のために造られたこれらの施設は幸いにも使用されることなく敗戦の日を迎えた。日吉台地下壕同様に、この戦争遺跡を保存する大切さを学び、アジア・太平洋戦争の事実を後世に伝える重要さを再認識した。



舞鶴山・地下壕 最奥の部屋

お知らせ**第24回川崎・横浜平和のための戦争展 2016 実施要項
テーマ…「次世代に伝えよう 地域の戦争遺跡！」****1、趣旨および経緯**

24回目を迎える今年の「平和のための戦争展」のテーマを「次世代に伝えよう 地域の戦争遺跡！」としました。その理由は次の二点にあります。

第一は、戦後も70年以上過ぎ「アジア太平洋戦争の風化」が進んでいることからくる課題です。「直接体験の継承は70年が限界」といわれます。戦争体験者から直接話を聞くチャンスがどんどん少なくなっています。したがって戦争は間違いなく遠い過去のことになってきました。そのような状況がくることを予知して、私たちは長い間、地域に残る戦争遺跡を掘り起こし、保存し、伝えることをめざしてきました。

陸軍登戸研究所は、「登戸研究所保存の会」が長い間努力した結果、明治大学平和教育登戸研究所資料館として保存・公開されています。連合艦隊日吉台地下壕も定期的に「日吉台地下壕保存の会」が案内し、その価値を伝えてきています。川崎市中原区の「川崎中原の空襲・戦災を記録する会」では地域の空襲体験や戦前・戦後の動きを町内会の協力を得て記録としてまとめ上げ、「中原今昔かみしばい」として伝える活動を行っています。また「みやまえ・東部62部隊を語り継ぐ会」も、川崎市宮前区にのこる東部62部隊跡を調査した結果を冊子にまとめ、戦争中の出来事を考え、伝える活動をしています。私たちは黙っていたら消えてしまったであろう「地域の戦争遺跡」を、未来に伝えることが出来る様に、市民としての努力を重ねてきました。《忘れずに、引き継ぐため》の私たちの活動の歴史を皆様と共有したいと思います。

第二は、若い世代が「地域の戦争遺跡」の価値をどう引き継ぐかということです。私たちは当初から「平和のための戦争展」の重要な柱として、「若者の発表」を実施し、一度も途切れることなく若者に発表の場を提供してきました。

高校生たちの多くは、部活動の研究発表の機会として、また大学生たちは、ゼミの研究成果を報告してきました。若手研究者や教育者が、自分の直面する課題について報告したこともありました。また若者だけのシンポジウムを開き、意見をたたかわせたこともあります。20年以上の取り組みの中から研究者やジャーナリストも育ってきました。これまでの成果をさらに生かし、はるか歴史のかなたに埋もれそうになっている戦争、しかし、絶対に埋もれさせてはならない戦争を、「若い世代にどう伝え、若い世代が、どう引き継ぐか」をテーマに取り組んでいきたいと思います。

10月22、23日と川崎市中原区の川崎市平和館で開催します。写真や資料の展示は2日間行い、若者の発表やシンポジウムは23日に屋内広場において行います。秋の一日、ご来場くださいって、共に考え、語り合いたいと願っております。

2、テーマ 《次世代に伝えよう 地域の戦争遺跡！》

3、開催日程 2016年10月22日（土）～23日（日）9：00～17：00

4、会 場 川崎市平和館（東横線元住吉 044-433-0171）
入場無料 事前予約不要

5、内 容

☆展示 平和館展示スペース 22、23日 9：00～16：30

実施団体の写真パネル・調査研究資料・地図など

22日 13:00～15:00 展示ミニレクチャー

☆若手教育者の発表 平和館屋内広場 23日 10：00～12：00

○遠山耕平 法政大学第二中・高等学校教諭「高校生と一緒に 登戸研究所を掘りおこす」

○都倉武之 慶應義塾大学准教授「大学は戦争のなにを〈引き継ぐ〉のか」

☆シンポジウム 平和館屋内広場 23日 13:00~16:00

テーマ 「次世代に伝えよう 地域の戦争遺跡！」

基調報告 山田 朗 明治大学平和教育登戸研究所資料館館長

パネリスト 各実施団体から1名

6、運営 川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会

7、主催・実施団体・後援

主 催 川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会

後 援 川崎市・川崎市教育委員会

実施団体 登戸研究所保存の会／日吉台地下壕保存の会／川崎中原の空襲・戦災を記録する会／蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会／みやまえ・東部62部隊を語り継ぐ会

8、代表・副代表・顧問

代 表 姫田 光義 登戸研究所保存の会

副代表 阿久沢 武史 日吉台地下壕保存の会／大団 建吾 登戸研究所保存の会／渡辺 賢二 登戸研究所保存の会／長谷川 崇 日吉台地下壕保存の会／対馬 労 川崎中原の空襲・戦災を記録する会／大泉 雄彦 みやまえ・東部62部隊を語り継ぐ会

顧 問 白井 厚 慶應義塾大学名誉教授

新井 摥博 日吉台地下壕保存の会・蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会

連絡先 森田 忠正 044-911-2726・亀岡 敦子 045-561-2758

江連 恭弘 法政第2中高等学校

お知らせ

今年も日吉と慶應の文化祭、日吉フェスタ2016が開催されます。

日吉台地下壕保存の会は、今年も来往舎横のテントにて展示と書籍の販売で参加します。

恒例の日吉キャンパス地上ツアー「ぶらへり キャンパスウォーク」も行います。

日時 11月5日(土) 12時~16時 ※地下壕には入りません。

キャンパスウォーク : 13時と14時の2回 (保存の会テント前集合)

お知らせ

八王子の戦跡と浅川地下壕をめぐるバスツアーの案内

日 時 2016年11月27日(日) 8:00~18:00(予定)

見学地 午前 戦災樹木の銀杏並木・湯ノ花トンネル空襲慰靈碑など

午後: 浅川地下壕(中島飛行機武藏製作所)・JR高尾駅銃弾跡

案 内 浅川地下壕保存をすすめる会(齋藤勉さん 中田均さん)

集 合 7:45 慶應義塾日吉キャンパス守衛所前

参加費 5,000円(交通費・資料代・保険料・謝礼など 当日集金します)

募集人員 25人(先着順)

講演

2016.4.9. ガイド養成講座第4回での講演（要旨再録） 駆逐艦「雪風」乗組・元特別年少兵西崎信夫さんのお話（上）

文責 山田譲

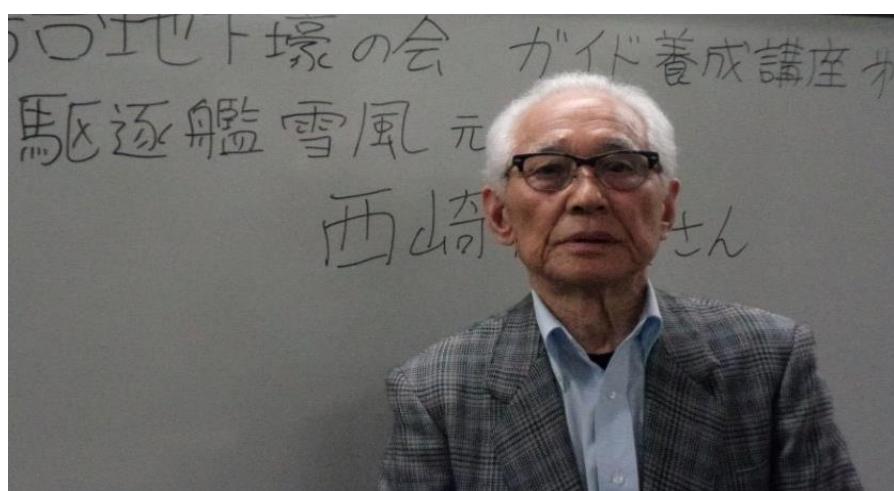
駆逐艦「雪風」はアジア太平洋戦争中の主な海戦に参加しながらも、最後まで生き残った「幸運艦」とよばれた艦です。日吉の連合艦隊司令部からの作戦命令に従い、1944年10月のレイテ沖海戦や1945年4月の戦艦「大和」沖縄水上特攻にも参加し、撃沈された「大和」の生存者救助にもあたりました。当時わずか15歳で海軍を志願して水兵となつた戦争体験を、今年のガイド養成講座でお話していただきましたので、以下、その要旨を上・下2回に分けて再録いたします。

①15歳で海軍海兵团入団、母は「ともかく生きて帰りなさい」

私は昭和2年（1927年）1月2日生れ、89才です。三重県出身で、9人兄弟の末っ子でした。兄2人が出征し、家が貧乏で家計をたすけるため、軍人になろうと思いました。予科練にもあこがれました。おじさんは日露戦争で戦死して大きな墓があり、自分も海軍に行きたいと思いました。その矢先に村の方から海軍特別年少兵をすすめられました。先生は「よく決心した」と言いましたが、母親は反対していました。広島の新設の大竹海兵团に行きました。出征の朝「ともかく生きて帰りなさい」と母に言われました。当時はお国のために死ぬのは当然という中のことでした。村の壮行会では村長があいさつし、「郷土の誇り」と言されました。15才でした。駅では日の丸で万歳、万歳。自分は宙に浮いたような感じでした。友達の「ノブちゃんがんばれよー」「ノブちゃん死ぬなよー」の声を聞いて、はじめてこれが戦争に行くことかと思ったら、戦争へゆくのが怖くなつた。母親が50m位はなれていたが目で何か言ってました。

昭和17年9月1日に大竹海兵团に入りました。郡内から採用された特別年少兵は2人だけでした。入団し白い作業衣に着替え、営門に待つ付添いの義姉に着てきた服を渡して別れた際も、このまま一緒に故郷へ帰りたいと思った。特別年少兵の第一期生3,800名が全国から集められた。呉鎮守府所属の大竹海兵团は600人。入団式が終わると教官の態度がガラリとかわり「シャバッ気をぬいてやる」と言い、朝5時起床し、午前普通学、午後軍事訓練をうけました。私の分隊は全員240名で一班20名（12班に分かれた）。軍事教練と勉強。いつも野山をかけていたので、きびしい訓練に耐えられました。田舎では、うさぎやうなぎをとるしかけを考えてつくったりして、つかまえるとさばいていました。3ヶ月したら首つり自殺が1人出ました。新しい海兵团は寒くて6人が凍傷になり足を切断し入院した者、病気でも1人帰されたが、自分だととても帰れない。そういう生活が1年間続きました。軍事教練は耐えられたが、英語と数学は苦手で平方根を覚えていなくて往復ビンタをもらい、それがキッカケで、夜中にトイレで猛勉強をした結果、無事海兵团を卒業できました。

第一期生600名が練兵場に整列し、海兵团長の卒業検査をうけた。団長を最敬礼してお迎えしたところ、運悪く団長が自分の前で足を止められ「戦場における軍人精神の神髄は何か？」と聞かれました。とっさに母に教えられたとおり「生きて帰る事あります。」と



ガイド養成講座で講演される西崎信夫さん

言ってしまった。団長はうなずいて通り過ぎたが、教官から「何を言ったのか！天皇陛下のために死ぬことだ！」とどなられたが、ビンタはされませんでした。

②駆逐艦「雪風」の水雷手として乗艦

そのあと横須賀水雷学校に行きました。魚雷は長さ9m、直径60cmで3分の1は爆薬。「雪風」は16本積んでいて、常時4本、予備4本の発射管が2基ついていました。九三式魚雷が駆逐艦に当たれば1分間ともたない破壊力をもつ。戦争の緊迫から、水雷学校では繰り上げ卒業することになり、私は駆逐艦「雪風」乗組み命令をうけた。水雷学校卒業時、教官から

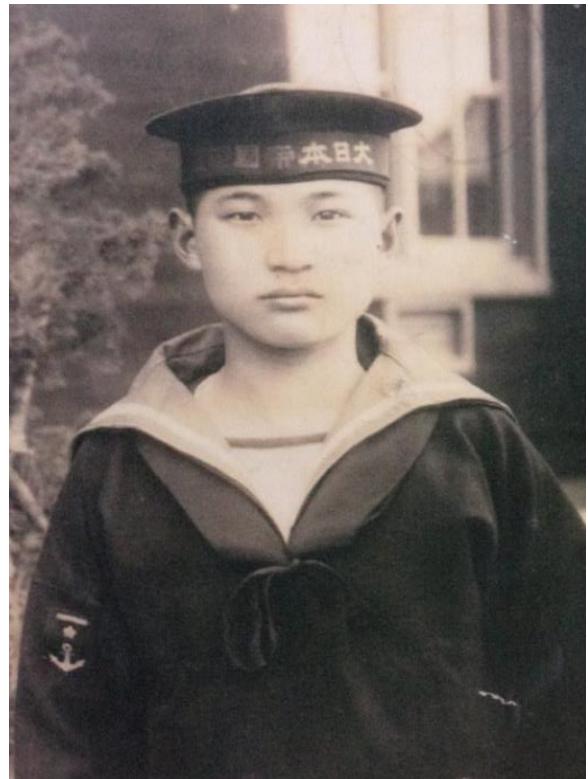
「人のいやがる仕事を率先してやれ」と言われたことを胸に、呉軍港に入港中の「雪風」に乗組んだ。

これが自分の一生を決めることになりました。「雪風」は奇蹟の幸軍艦と言われています。それで今こうして話ができます。おもったより小さい艦で、水雷科の雰囲気は無頼な感じで自由な感じでした。新艦長に寺内少佐が着任して「俺が『雪風』に乗組んだ以上、この船は絶対沈ませない」と挨拶しました。昭和19年の海軍は後退し続けて、自分は乗艦以来、一度も勝ったことがない。実戦経験豊富な艦長で、駆潜艇に乗っていた艦長でした。爆弾の落ちるのを見ながら操艦する。中尉か大尉の航海長が艦長の命令をうけて操舵員、機関科へ伝えられ、はじめて舵が動くのです。機関科員は40°Cの船底で、忍耐強く、また絆が強いところから艦長を助けた。このような底力があったからこそ「雪風」に強運を呼び込んだと思います。

③人間魚雷「回天」の特攻兵たちの気持ち

人間魚雷「回天」は魚雷を応用したもので、昭和20年1月、「回天」の襲撃訓練（発射試験）が徳島沖で行われ、「雪風」は訓練の標的艦として参加した。艦底の下を通す。伊号潜水艦に4隻「回天」を積む。自分は万一、穴があいたら防水する役でした。その際、「回天」搭乗予定者の予科練習兵と関係者80名が「雪風」に乘込み、襲撃訓練を見守った。2000m先から潜望鏡を出して来る。1号艇から3号艇まで失敗し、若い予科練習兵3名が殉死した。もうやめればいいと思ったが続けました。4号艇だけが成功した。みんな万歳。800m先で浮上して徳山まで行ってそこで大型クレーンで引き上げられ地上でハッチが開けられて、はじめて外に出られるという、まさに人間無視の新兵器でした。

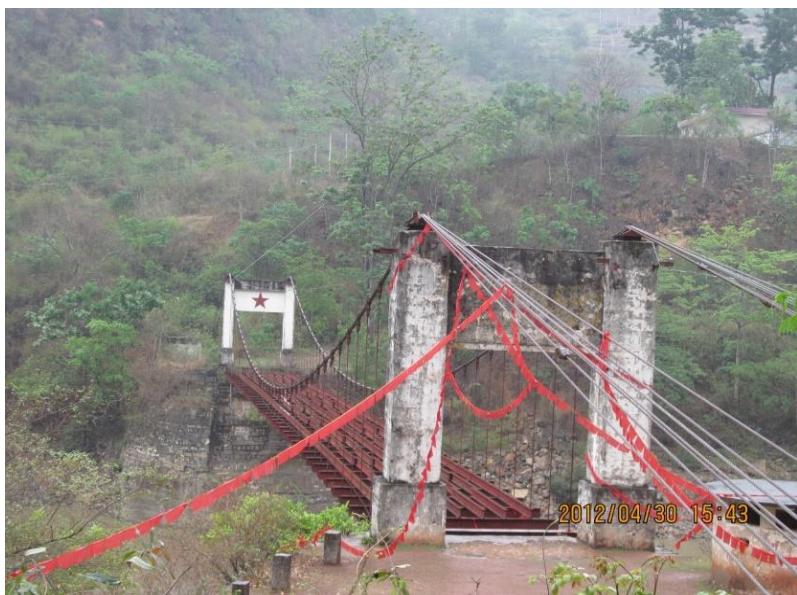
特攻兵の考えていることは自分たちとぜんぜん違います。肉弾攻撃をやる。彼らは軍神と自分たちを言う。私は何が何でも生きて帰ると考えている。こういう制度をなぜ日本海軍はやっているのかと思いました。昭和18年に土浦海軍航空隊を卒業した彼らは、しかし飛ぶ飛行機がない。そしたら「新兵器が出来た。希望者はいないか」と言われて志願した。生活はわびしく殺風景で秘密主義で人と話ができない。「気が滅入る」と言う。どうするかというと山に入って、棒で回りの木をたたき切っていました。準備不足のまま「回天」基地がつくられて配属されていった。なぜそこまでするのか。本土決戦のためだという。しかし成果もわからない。4隻のうち3隻失敗している。うまくいくわけがない。軍部は態勢挽回を理由に、未完成な「回天」をそのまま出撃させたが、その戦果は不明でした。行方不明者多数で潜水艦母艦自体も行方不明多数でした。《以下、次号（下）に続く》



セーラー服姿の西崎信夫さん

海外の戦跡めぐり（4）拉孟戦と惠通橋

運営委員 遠藤美幸



ビルマートの交通の要所であった「惠通橋」

通り、中国国境を越えて雲南省に入り、昆明に至る「ビルマート（援蒋ルート）」です。

その「ビルマート」を遮断するため、1942年5月、日本軍は中国雲南省西部の軍事拠点・拉孟（らもう）に強固な陣地を築き、1300人の拉孟守備隊を配備しました。この作戦は「断作戦」と呼ばれ、ビルマ防衛戦の最後の砦として重要視されました。

拉孟は2000メートルの雲南の奥深い山上に2年の歳月をかけて構築された陣地です。眼下には怒河が大蛇のように山間をうねっています。その怒河に、惠通橋と呼ばれる橋が架かっています。この橋は1875年に架けられた中国式の吊り橋で、19世紀より四川、昆明、大理、保山、ビルマに続く「南方シルクロード」の交通の要所でした。

1944年6月、英米連合軍は新たな「ビルマート」の奪回作戦を開始しました。中国軍4万人が拉孟陣地を包囲し、100日間の死闘の末、拉孟は全滅します。拉孟戦とは、ビルマートの交通の要所である「惠通橋」の争奪戦であったともいえるでしょう。

1993年11月16日、旧惠通橋は雲南省人民政府により雲南省の「文化保存橋」に指定され、現在は使われていません。旧橋の隣に、コンクリート製の新惠通橋が架けられており、「惠通橋」は数世紀の時を経てなおミャンマーと中国を結ぶ交通の要所であり続けています。

チョット一息・・

地下壕入口への小道にはいつも季節の花々… 春のすみれ、むらさきだいこん、初夏はきいちご、アザミ、からすうり、今は彼岸花が。



活動の記録 2016年6月～9月

- 6／19(日) ガイド学習会（菊名フラット）
 6／20(月) 地下壕見学会 日吉地区センター講座②（見学会）40名
 6／25(土) 定例見学会 60名
 6／29(水) 地下壕見学会 慶應高校 15名
 7／2(土) 地下壕見学会 立教大学大学院多田研究会 8名
 7／9(土) 拡大ガイド学習会（来往舎大会議室）会報126号発送（来往舎205号室）
 7／12(火) 地下壕見学会 日本材料学会・慶應義塾小茂鳥研究室 25名
 7／13(水) 定例見学会 54名
 平和のための戦争展川崎・横浜実行委員会（法政第二高校教育研究所）
 7／20(水) 「日吉台地下壕パネル展」開始（港北図書館 まちの情報コーナー）
 ～8/14迄開催
 7／21(木) 運営委員会（来往舎205号室）
 7／23(土) 定例見学会 67名

☆ 夏休みの見学会 7/30～8/6
 まで5回実施 232名参加
 (小中高生47名)

- 7／30(土) 午前51名・午後40名
 8／1(月) 30名
 8／4(木) 58名
 8／6(土) 53名

夏休みの見学会を5回実施。8月4日、10日は来往舎会議室を借りられ、涼しくガイダンスができました。会議室と地下作戦室のガイドにプロジェクターを使いました。



8／7(日) 中高校生向け特別授業
 『日吉台地下壕を知っていますか』
 (港北図書館会議室)



8月7日 中高校生向け特別授業「日吉台地下壕を知っていますか」港北図書館会議室にて開催。初めての企画ですが、中高生・保護者・先生18名が参加、広島への修学旅行事前学習の中学生も。

“日吉台地下壕パネル展示会”(7/20～8/14：
 港北図書館1F 港北まちの情報コーナーにて)

8/10(水) 定例見学会 60名

8/20(土)~22(月) 第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム長野県松代大会開催
(長野県長野市松代町 松代文化ホール・松代公民館) 保存の会からの参加 10名

9/4(日) ガイド学習会(菊名フラット)

9/6(火) 運営委員会(来往舎205号室)

9/7(水) 地下壕見学会 横浜聴覚障がい者グループ 20名



9月7日 聴覚障がい者グループ20名を案内。 視聴覚障がい者へのガイドは今までわかりやすいように工夫していましたが、今回も手話通訳者の補助として文字プレートを使いました。参加者から「わかりやすかった」との感想が。通常のガイドにも使えるような見やすい大判の文字プレートが必要だと思いました。5月にガイド養成講座を修了した新ガイドも活躍中。

★予定 9/24 会報127号発送

★定例見学会について日吉台地下壕の定例見学会は毎月2回実施しています。毎月第2水曜日10時~12時30分・第4土曜日13時~15時30分(9月11日現在、11月までの見学会申し込みは定員を超えました。)

★地下壕見学会は予約申し込みが必要です。お問い合わせは見学会窓口まで

Tel・Fax 045-562-0443(喜田 午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-

2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 阿久沢 武史

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会